

よみがえれ地方語

船津 好明

◎ 9 ◎

①

沖縄文字と発音

(扇、おーえー(けんか))

とんど同時にいうようにすると、「え」の発音に近くなる。のどぐちを閉じた場合よりも濁った感じになる。国語の「え」と異なり、また、「いえ」のように二音に聞こえるような発音は正しくない。

を

音韻記号 = 'o
国際音声記号 = [o]

「お」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇を中位に丸めてつき出し、のどぐちを閉じて、これを破裂させるような感じで「お」といふようにすると、沖縄語の「お」の発音に近くなる。のどぐちを開いた場合の「を」よりも澄んだ感じになる。

お

音韻記号 = ?o
国際音声記号 = [ʔo]

その他の国語の平仮名は概ね国語の発音の仕方です。しつかえない。

「を」の用例——をーじ(王子)、をーれー(往来)原則として基礎単語の語頭に用い、語頭以外では「お」または「ー」を用いる。

沖縄文字

え

音韻記号 = 'e
国際音声記号 = [e]

対照国語文字

え

音韻記号 = ?e
国際音声記号 = [ʔe]

発想——国語文字「え」のウムラウト(変音)としたもの。

用例——えーじ(八重州)、えーま(八重山)原則として基礎単語の語頭に用い、語頭以外では「え」または「ー」を用いる。

対照例——えーじ(合図)、えーさち(挨拶)

「え」の正しい発声への一つの接近法——両頬を引き、上下の唇の間を細長く

「え」の正しい発声への一つの接近法——両頬を引き、上下の唇の間を細長く広げ、のどぐちを閉じて、これを破裂させるような感じで「い」と「え」をほとんど同時にいうようにすると、沖縄語の「え」の発音に近くなる。発声時の口の形(唇、歯、舌、頬など)は、のどぐちの部分を除いて、前記の「え」の発声時と少しも変わらない。「え」よりも澄んだ感じになる。国語の「え」と異なり、また、「いえ」のように二音に聞こえるような発音は正しくない。

「を」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇を中位に丸めてつき出し、のどぐちを開いて、国語で「お」といふようにすると、沖縄語の「を」の発音に近くなる。のどぐちを閉じた場合の「お」よりも濁った感じになる。

「お」の用例——おーじ(沖縄語研究者)